

ルクセンブルク情勢（2011年第4四半期〈10-12月〉）

1. 概況, 主要トピック

【内政】

●統一地方選挙が実施され、市長、助役、議員が改選。全国レベルで緑の党が躍進（今回は74議席を獲得。前回2005年選挙では41議席）。グザビエ・ベッテル助役が新ルクセンブルク市長に選出。

●クレツケ経済・通商大臣が2012年2月付の辞任及び政界からの引退を発表。社会労働党は、後任としてエティエンヌ・シュナイダー現経済・通商省首席参事官を選出。

【外交】

●対アラブ外交の強化

- ・アラブにおけるルクセンブルクの大使館の新設（アブダビ、アンカラ）。
- ・ギヨーム皇太子殿下率いる経済ミッションの実施（ア首連、カタール）
- ・アッセルボルン副首相兼外相のクウェート訪問

【経済】

●カタール系投資グループPrecision CapitalがデクシアBILを買収。

●インフレ率：10月3.4%、11月3.6%、12月3.2%

●失業率：10月5.9%、11月5.9%、12月6.2%

●投資信託資産高：10月2兆719億ユーロ、11月2兆594億ユーロ、12月2兆965億ユーロ

【その他】

●約20年間に渡り日本に滞在し、ルクセンブルク・日本の友好関係強化に寄与してきたジャン・クロード・オロリッシュ氏（元上智大学副学長）の大司教就任式が、ノートルダム大聖堂にて行われる。

2 主な出来事

【10月】

(1) 内政

9日 統一地方選挙が実施され、市長、助役及び議員の改選が行われる。全国レベルで緑の党が台頭。

15日 秋の国際見本市がLuxexpoにて開幕。

17日 ヤコブス開発協力・人道支援大臣，欧州委員会の国際協力・人道，危機管理担当員とアフリカの角の飢餓，アジアやラ米の洪水の情勢等につき議論。

18日 開発支援のインパクトの強化をテーマとした国連ハイレベルシンポジウムが，150以上の政府，国際機関，市民，民間セクター等の関係者を集めて開催される。

28日 アッセルボルン副首相兼外相，Ekmeleddin Ihsanoglu イスラム連盟事務局長とワーキングランチで中東情勢について意見交換。

(2) 外交

11日 アッセルボルン副首相兼外相，EU総務理事会（ルクセンブルク）に参加。G20カンヌ・サミットや国連気候変動枠組条約第17回締約国会議に向けたEUのポジション固めを協議。

17-21日 ギヨーム皇太子殿下率いる中国経済ミッションが実施される。

20日 オショティメイン国連人口基金 (UNFPA) 事務局長がルクセンブルク（同機関の第14位のドナー）を訪問。婦人の保健衛生状況改善に係るルクセンブルク政府の協力を謝意を表明。

22日 アッセルボルン副首相兼外相，EU総務理事会に出席。

24日 ヤコブス開発協力・人道支援大臣，ニジェール訪問。農村開発戦略行動計画の実施，及び食糧危機の管理・防止に関する2つの協定に署名。

24-27日 ヤコブス開発協力・人道支援大臣，セネガル訪問。第二次協力プログラム（2007-2011年）の総括後，第三次協力プログラム（2012-2016年）に署名。

26日 ルクセンブルク主導で，第4回EU-中国文化対話を開催（2011年は中国-ルクセンブルクの二国間文化協定署名30周年に当たる年）。

26日 アッセルボルン副首相兼外相，ロシア訪問。外相会談で，二国間関係，EU-ロシア関係について協議。ロシアのWTO加盟への期待を表明。

27日 アッセルボルン副首相兼外相，フィンランド訪問。外相会談でEUの財政状況，安全保障につき意見交換，欧州対外活動庁の業務方法や意思決定プロセスの複雑さを指摘。

28日 ルクセンブルク赤十字，トルコの地震被害への支援として360のテントを送付。

(3) 経済

3-4日 ユンカー首相とフリーデン財務大臣がユーログループ会合及びEU財務相理事会に出席（於ルクセンブルク）。

5日 フリーデン財務大臣，2012年予算案を国民議会に提出。

6日 ・ユンカー首相がベルリンを訪問し，メルケル首相と協議。欧州中銀政策理事会に出席。シュレーダー元首相とも会談。

・フリーデン大臣、海外の投資家がデクシア BIL 買収の準備があると発表。ルクセンブルク政府も同行の少数株主に。

9日 デクシアへの政府保証等につき、当国・仏・白政府が協議（ブリュッセル）。当国からはフリーデン財務大臣が出席。

10日 ・フリーデン財務大臣、カタール系金融グループがデクシア BIL 買収交渉を進めていることを発表。

・カタール系投資会社 Precision Capital 社が KBL を買収。

13日 ユンカー首相が、レーン欧州委員、ファン＝ロンパイ欧州理事会議長、パパンドレウ・ギリシャ首相と協議。

14日 フリーデン財務大臣、国民議会財政予算委員会・予算執行管理委員会の会合に出席、予算状況の推移につき説明。

17-20日 フリーデン財務大臣、金融ミッションでシンガポール、マレーシア、中国を訪問。

21・22日 ユンカー首相とフリーデン財務大臣、ユーログループ会合及び EU 財務相理事会に出席（於ブリュッセル）。

23日 ユンカー首相、欧州理事会及びユーロ圏首脳会議に出席（於ブリュッセル）。

24日 政府が今年度の「Bilan compétitivité（競争力レポート）」を発表。

26日 ユンカー首相、非公式欧州理事会及びユーロ圏首脳会議に出席（於ブリュッセル）。ギリシャへの第二次支援、金融機関の自己資本比率引き上げ、EFSF の実質的融資能力の拡大などについて協議。

（４）その他（大公室など）

16日 ノートルダム大聖堂にて、オロリッシュ新ルクセンブルク大司教の就任式が行われる。

【11月】

（１）内政

10-11日 Luxexpo で第25回学生市の開催。グランドレジオンの学生を対象に20カ国以上から250点の展示が行われる。

10日 クレツケ経済・通商大臣がベトナム経済ミッションを急遽中断して帰国し、個人的理由により2012年2月1日付で辞職し、政界から引退する旨記者会見にて発表。

11日 ユンカー首相、ギリシャの新政府及びパパデモス新首相の任命を歓迎。

15日 アッセルボルン副首相兼外相、国民議会でヨーロッパ・外交政策につき演説を行う。EUの債務問題、EU拡大の他、東日本大震災についても言及あり。

17日 デルポー・ステレス国民教育・職業訓練大臣、高校の改革案について1200名の学生を相手に4時間に渡り意見交換。

24日 ベッテル・ルクセンブルク新市長を含めた12の新市長の宣誓式が行われる。
28日 社会労働党は、2012年2月1日付で辞任するクレツケ経済通商大臣の後任としてエティエンヌ・シュナイダー現経済・通商省首席参事官を選出。

(2) 外交

7日—10日 アンリ大公殿下、ベトナムを公式訪問。国家主席と初の会談。ルクセンブルクの経済協カプロジェクトサイトを視察。金融セクターの技術支援、能力開発、研修等に係る覚書が署名される。

9—10日 ユンカー首相、ポルトガルを公式訪問、外相、財務相と欧州理事会のフォロー、ユーロ圏のガバナンス等について議論。

14—16日 クレツケ経済通商大臣、ロシア—ベルギー・ルクセンブルク連盟の経済協力委員会第8回会合出席のためモスクワ訪問。

20—22日 ギヨーム皇太子殿下率いるアラブ首長国連邦への経済ミッション実施。皇太子殿下、クレツケ経済・通商大臣、アッセルボルン副首相兼外相がアブダビでルクセンブルク大使館の新設式に参加（アラブ初のルクセンブルクの大使館）。

21日 フリーデン財務大臣、モスクワにて二重課税回避のための二国間協定に署名。

21日 アッセルボルン副首相兼外相、クウェート訪問し、首相、外相と会談。「将来のための第8回フォーラム」に参加。

22日 ユンカー首相、ルクセンブルクを訪問したパパデモス・ギリシャ新首相とギリシャの財政情勢等につき会談。

23日 ギヨーム皇太子殿下率いるカタールへの経済ミッションの実施。エネルギー産業分野の二国間協力の可能性について協議。タミーム皇太子殿下に謁見。双方の中央銀行総裁の間で協力合意が署名される。

28日 トーニング・シュミット・デンマーク首相がルクセンブルク訪問。ユンカー首相とEU債務問題につき協議。

29日 アッセルボルン副首相兼外相、アンカラで在トルコ大使館の開設式典に参加。

(3) 経済

7—8日 ユンカー首相とフリーデン財務大臣がユーログループ会合及びEU財務相理事会に出席（於ブリュッセル）

7日 ・ユンカー首相がパパンドレウ・ギリシャ首相と協議。

・EFSFがアイルランド財政支援パッケージの一環として30億ユーロの起債。

16日 ユンカー首相が欧州議会で経済ガバナンスについて説明（ストラスブール）。

24日 シュミット労働大臣が当国雇用市場に関する統計を発表。

29・30日 ユンカー首相及びフリーデン財務大臣がユーログループ会合及びEU財務相理事会に出席（ブリュッセル）。

(4) その他(大公室など)

11日 ギヨーム皇太子殿下, 30歳の誕生日。

22日 エリザベス王女(アンリ大公殿下の叔母, ジャン前大公殿下の妹)が88歳で逝去。

26日 大公妃殿下, 第51回インターナショナルバザーを訪問。

【12月】

(1) 内政

1日 モデルト文化大臣, 近代美術館の2012年プログラム紹介の機会に, 現代芸術の支援の重要性をメセナへ呼びかけ。

5日 ヘット＝ガーシュ観光大臣, 2011年の観光セクターの状況を総括。同セクターは全般的に良好であり, 宿泊施設の利用は2010年に比較し7.3%増(特にユースホステル利用が増加)。仏, 英からの観光客が増加傾向。

5日 中等教育の改革法案(科目選択や外国語授業のレベル選択により柔軟性を持たせる等を目的としたもの)が発表される。

7日 フリーデン財務大臣, 国民議会で2012年の国家予算案(0.7%の赤字予算)につき説明。

7日 クレツケ経済・通商大臣とビルツェン通信・メディア大臣が, ルクセンブルクにおけるInnova(インターネットのゲーム製作・販売を行うロシアの企業)の設立を発表。

13日 ユンカー首相, 同日リエージュで発生した襲撃事件につき, デイルポ・ベルギー首相に対し哀悼の意を表明。

14日 在ロシアのルクセンブルク名誉領事Victor Rashnikov氏の宣誓式。

(2) 外交

1日 アッセルボルン副首相兼外相, EU外務委員会に出席。西バルカン情勢, イラン, エジプト情勢等につき協議。

4-5日 アッセルボルン副首相兼外相, アフガニスタンに関する国際会議(ボン)で, 国家再建に向けた国際社会の長期的コミットメントにつき議論。

5-9日 シャンク持続的成長・インフラ大臣, 第17回気候変動枠組条約締約国会議(ダーバン)へ参加。

6日 アッセルボルン副首相兼外相, ビリニユスの第18回OSCE外相理事会に参加, メディアにおける表現の自由やジャーナリストの安全の重要性を強調。

7-8日 アッセルボルン副首相兼外相, NATO外相会合に参加。明年3月にシカゴで開催予定の首脳会議の準備を念頭に, コソボ治安維持部隊(KFOR)の活動やリビアにお

ける活動につき協議。

7—8日 ヤコブス開発協力・人道支援大臣, 国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の開発融資に関する第5回ハイレベル対話(NY)に参加。人道に係る緊急事態の際の通信サービス回復に係るルクセンブルクのイニシアティブを発表。

8—9日 ユンカー首相, 欧州理事会(ブリュッセル)で, ユーロ圏の協調, 雇用, 税制対策, エネルギー政策, EU拡大等につき討議。

11日 アッセルボルン副首相兼外相, 国連の文明間の同盟第4回グローバルフォーラムに出席(ドーハ), 自由, 公正, 人権の重要性に言及しつつスピーチを行う。

14日 南スーダン共和国と外交関係を樹立。

20日 リトアニア年次外交会議(大使会議)にアッセルボルン副首相兼外相が出席。

20日 ハルスドルフ内務・グランドレジョン大臣, リヒテンシュタインのシェンゲン圏加入式典に参加。

22日 イエレミッチ・セルビア外相がルクセンブルクを訪問。アッセルボルン副首相兼外相とセルビアからの移民流入問題への対応等につき協議。

(3) 経済

1日 雇用をテーマとして政労使三者協議が開催。

14日 ・ユンカー首相が国民議会で欧州理事会決定について説明。

・鉄鋼業三者協議の開催。

・ユンカー首相が16日に予定されている三者協議が開催されなくても賃金物価スライド制について決定を行うと国民議会で発表。

15日 国民議会在雇用局(ADEM)改革を可決。

16日 ユンカー首相が記者会見を開き, 賃金物価スライド制等に関する政府決定を発表。来年からの3年間(2012—2014年)についてはスライド制の実施は年1回。

19日 ユーロ圏加盟国がIMFへの1500億ユーロの融資を決定。

20日 カタール系投資グループPrecision Capitalが, デクシアBIL買収に関する契約を締結。Precision CapitalがBIL株の90%を, 当国政府が10%を取得する。契約料は7億3000万ユーロ。

(4) その他(大公室など)

10日 アンリ大共同妃両殿下, ストックホルム王宮で2011年ノーベル賞授与式及び国王主催晩餐会に列席。ルクセンブルク生まれのホフマン氏が医学ノーベル賞を受賞。

15日 11月22日に逝去したエリザベス王女のミサが, アンリ大公殿下他列席の下, サン・ミッシェル教会で執り行われる。

24日 アンリ大公殿下が年末に際してのメッセージを発出。東日本大震災は世界中の関心を喚起し, 原発の安全性, 将来のエネルギー供給についての再考を余儀なくした旨

に言及。